**【検 査 説 明・同 意 書】**

必須

診療録用

この用紙を忘れずに、検査当日にお持ちください

単純CT

発行日　　　年　　月　　日

予約日：　　年　　月　　日

ふりがな（　　　　　　　　　　　　　　　）

患者名　　　　　　　　　様　　**男・女**

**生年月日　　　　年　　月　　日 生（　　　歳）**

必須

◆今回の検査は

**頭部・頚部・胸部・上腹部・骨盤部・その他（　　　　　　　　）**

のＣＴ検査です

◆下記の目的（診断）のために精密な検査が必要です

※複数部位オーダではそれぞれの部位を撮影する理由が必要

|  |
| --- |
| 胸部：腹部：頭部：その他： |

◆ＣＴ検査に伴う放射線被ばくについて

ＣＴ検査そのものは痛みがなく安全な検査ですが、Ｘ線を用いるためわずかですが放射線被ばくがあります。放射線の被ばくを受けるリスクがありますが、あなたの場合ＣＴ検査を受けて得られるメリットの方がはるかに大きいので安心して検査を受けていただけます。

　　当院におけるＣＴ検査では、下表の医療被ばく研究情報ネットワーク（J-RIME）が提案する診断参考レベル（DRLs 2015）の値より同等もしくは低い被ばく線量となっており、被ばく線量低減に努めています。

＊＊＊＊＊＊　別紙「身の回りの放射線被ばく早見図」をご覧下さい　＊＊＊＊＊＊

◎放射線の体に及ぼす影響

受けた放射線の量が１００ミリシーベルト未満であれば、発癌率や遺伝的な影響の差はないと言われています。

◎ＣＴ検査の放射線の量

通常のＣＴ検査で１００ミリシーベルトを超えることはありません。

2020年4月現在

**当院のＣＴ検査における標準的な被ばく線量**

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| **成人ＣＴ** | **当院****[実効線量換算]** | **診断参考レベル****[実効線量換算]** |  | **小児ＣＴ****（頭部）** | **当院****[実効線量換算]** | **診断参考レベル****[実効線量換算]** |
| **頭部** | **2.7mSv** | 2.8mSv |  | **１歳未満** | **4.0mSv** | 5.5mSv |
| **胸部** | **6.6mSv** | 7.7mSv |  | **１～５歳** | **2.4mSv** | 2.6mSv |
| **胸部～骨盤****(造影大血管は２倍)** | **11.1mSv** | 19.5mSv |  | **６～１０歳** | **2.8mSv** | 2.7mSv |
| **腹部～骨盤** | **10.3mSv** | 15.0mSv | ※CTDIvolやDLPなどの詳細な線量は病院ホームページをご覧ください。 |
| **肝臓ダイナミック** | **25.3mSv** | 27.0mSv |  |
| **心臓** | **14.6mSv** | 19.6mSv |  |

私は担当医師から説明を受け、また上記の説明を読み、検査の必要性、放射線被ばくを受けることについて理解しました。

**単純ＣＴ検査を受けることに 【□ 同意します　□ 同意しません】**

必須

**日付:　　 　年 　　月　　 日 　　本人署名:(**　　　　　　　　　**)**

**担当医師氏名**（　　　　　　　　　）

**連絡先 徳島県立中央病院 088-631-7151**

身の回りの放射線被ばくの早見図

患者さん用

**人工放射線**

**自然放射線**

**身の回りの放射線被ばく**

高線量

宇宙から：約0.3mSv

大地から：約0.33mSv

食物から：約0.99mSv

ラドン等の吸入：

約0.48mSv

がん治療

（治療部位のみの線量）

**10Gy**

心臓カテーテル

（皮膚線量）

**１Gy**

**1000ｍSv**

がん死亡のリスクが線量とともに徐々に増えることが明らかになっている

原子力や放射線を取扱う

作業者の線量限度

100ｍSv / 5年

50mSv / １年

**100ｍSv**

**ＣＴ検査/1回**

**10ｍSv**

1人当たりの自然放射線

（日本平均：約2.1mSv）

胃のX線検診/1回

**1ｍSv**

PET検査/1回

東京－ニューヨーク（往復）

（高度による宇宙線の増加）

一般公衆の年間線量限度

（医療被ばくを除く）

**0.1ｍSv**

胸部X線集団検診/１回

**0.01ｍSv**

低線量

歯科撮影

※図の数値等は放射線医学研究所ホームページを参照しました

主要なＣＴ検査における被ばく

※下記のCT検査は、医療ばく研究情報ネットワーク（J-RIME）が提案する診断参考レベル（DRLs 2015）が無いため、当院の検査における被ばく線量のみを提示しています。

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | **当院****[実効線量換算]** |  | **当院****[実効線量換算]** |
| **頚椎** | **2.1mSv** | CTDIvol | 13 | **肺梗塞\*****(下肢静脈含む)** | **12.6mSv** | CTDIvol | 20 |
| DLP | 354 | DLP | 1300 |
| **胸椎** | **6.0mSv** | CTDIvol | 11 | **下肢動脈\*** | **13.2mSv** | CTDIvol | 16 |
| DLP | 427 | DLP | 1978 |
| **腰椎** | **9.6mSv** | CTDIvol | 19 | **肺動静脈** | **22.0mSv** | CTDIvol | 37 |
| DLP | 642 | DLP | 1561 |
| **頭部CTA** | **2.5mSv** | CTDIvol | 56 |  |  |  |  |
| DLP | 1208 |  |  |

\*肺梗塞(下肢静脈)および下肢動脈の実効線量換算はRadiology: Volume273: Number1 p157を参照しました

CT検査の被ばく線量の指標としてCTDIvolおよびDLPが用いられています。

CTDIvolは、CT撮影で受ける1cm当たりの放射線の吸収線量です。DLPは、撮影範囲分の放射線の吸収線量です。DLP=CTDIvol×撮影範囲[cm]

臓器・組織の各部位で受けた放射線の線量（実効線量という）へ換算する必要があるため、DLP[mGy･cm]から実効線量[mSv（ミリシーベルト）]へ換算しています。